

「生きる力を支える確かな学力を育むための指導の工夫」 —体験的学習の充実を通して—

## I 研究の内容

### 1 研究のねらい

- (1) 生きる力を知の側面からとらえた「確かな学力」の定着、本校の「めざす子ども像」における『学ぶ意欲をもち、自ら学び・考え・判断してよりよく問題を解決するとともに、主体的に表現することができる子ども』の育成をめざす。
- (2) 体験的な学習を知識の習得場面、あるいは知識の活用場面に取り入れ、友だちとの学び合いや言語活動との統合など、様々な活用を考えながら、「確かな学力」の定着にむけての有力な手だてとする。

研究  
仮説

教科学習・総合的な学習において、体験的な学習を取り入れ、工夫して指導していくことで、学ぶ意欲をもち、自ら学び・考え・判断してよりよく問題を解決するとともに、主体的に表現することができる「確かな学力」を育むことができるだろう。

- (3) 授業の基となる基礎学力の定着や学習基盤の確立に向けて、学校・家庭の連携と発達段階に応じた取り組みを研究し、実践を図る。

### 2 研究の内容

- (1) 「体験的な学習と指導の工夫」についての焦点を絞った理論研究
- (2) 体験的な学習を取り入れた学習活動の研究と実践
  - ① 指導計画の作成と指導方法の工夫
  - ② 体験的な学習の特質を生かした授業実践
- (3) 学習規律や学習習慣の定着(家庭学習の取り組み)について、共通確認し、日々の授業や家庭への啓発等実践を図る。

### 3 研究の実際

#### (1) 学習会

「体験的な学習と指導の工夫について」

講師：義務教育課主幹指導主事 小林 正治先生

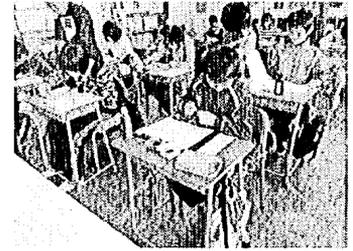
#### (2) 授業研究

- ①第2学年授業研究 算数 「分けた大きさをあらわそう」
  - ・日 時 平成23年10月12日(月) 5校時
  - ・単元の目標 分数を用いるとものを半分や四半分にした大きさに表せることを知り、日常生活の中で分数を用いる能力を身につけられるようにする。



- ◇算数科における理解をより実感のともなった確かなものにするために、体験的学習としての「算数的活動」(本時においては、手や身体などを使ってものを作るなどの作業的な活動・身の回りにある具体物を用いた活動)を取り入れることが、有効であることが実感できた。児童にとっての楽しく・わかる授業となる。
- ◇目標に向かって体験的に学ぶ方法(活動)は様々にあるが、目標を達成させるために、どこで・どの活動を・どのように取り入れていくことがよいのか、教科書をどのように使うかも含めて、十分に教材研究を深めることが重要である。
- ◇同様に、学び合い・言語活動についても場面や方法を吟味することが必要になる。低学年においては、やり方を変えながら声を出して何度も言ってみるという実践も有効である。操作と言語を結びつけて、意味の理解を図る手だてが不可欠になる。

- ①第6学年授業研究 図工 「日本のアート」きょうかしよびじゅつかん
- ・日 時 平成23年12月21日(水) 2校時
- ・題材の目標 鑑賞と言語活動の関連を図りながら、日本美術のよさや美しさに対する理解と自分なりの見方や感じ方を深めたり、日本と外国との美術を通じた文化交流の歴史などを知ったりすることができる。



- ◇鑑賞教材をこれまでの「見て、感じて、感想を言葉で表現する」学習指導の流れから、実際に描写する体験活動を取り入れることによって、一人一人が作品にせまることができた。その教材と直接的(描く)に関わり、五感を養い、子ども達が真剣に向き合うことができた。また、他教科(国語・社会科)との関連が図れていたことが、意欲向上と鑑賞に効果的な学習活動となった。
- ◇優れた作品や日本文化のもつよさに触れたり、気づかせたりする指導計画となっており、学習過程がわかる1枚ポートフォリオの利用が、個人の鑑賞を深める上で有効であった。
- ◇鑑賞において、墨の濃淡や線の太さの違いから感じ取れることなどの視点で目標をさらに明確にして、友達の作品鑑賞の際に、教師がよいと思われる表現を紹介したり、電子黒板を利用したりして、みんなで共有する場面があれば、児童が教材に主体的に関わった体験活動が鑑賞により生かされ、作品『鳥獣戯画』の鑑賞に本質的にせまることができたのではないかと考える。また、個人で自分が体験して感じた技能面の難しさや、作品を描きながら感じたことなど鑑賞を深め、発表する方法もある。

### (3) 体験的学習を取り入れた実践報告

- ・1年 生活「わたしのはなをさかせたい」
- ・2年 算数「わり算を考えよう」
- ・3年 算数「わり算を考えよう」
- ・4年 国語「調べて発表しよう」
- ・5年 算数「面積の求め方を考えよう」
- ・5年 理科「ふりこのきまり」
- ・あおぎり学級 算数「広さを調べて」

## II 成果と課題

- ・今年度も体験的な学習の充実を通して、「確かな学力」の定着を目指した。体験を通して学ぶ、あるいは学んだことを体験に生かす活動は、児童の意欲を高めるとともに、明確なねらいを持ち、学びあいや言語活動との統合を図ることにより、知識・技能の定着や思考力・判断力・表現力の育成という点においても効果を実感でき、研究テーマとして適切だったと考える。
- ・体験的な学習が明確なねらいを持って、適切に位置づけられ、体験を生かす有効な手だてをもって展開されたときには、「確かな学力」の育成につながることは、昨年度までの研究ともあわせて実感できるものである。だが、充実のための方途や留意点、指導の工夫の具体的なイメージといった点について全体で共有し、実践を積み上げていく必要がある。
- ・体験的な学習が効果的に取り入れられたテーマにせまる授業実践であり、実践報告だった。ねらいを持った体験をもとにした学び合いや言語活動が設定された授業では、学習意欲の高まりをはじめとした確かな学力の定着が期待できる。また、学習規律や学習集団づくりなど、授業の基盤となる部分の重要性も確認できた。
- ・学習規律、学習習慣、学習集団、さらに生活習慣が、授業を支える基盤となっている。家庭も巻き込み、まさに、教育活動全体で、組織的、系統的、意図的に取り組んでいかなければならない。学習規律については、今年度の実態をもとに発達段階に応じた系統性を考えながら継続していくことがよい。また、家庭学習の充実に向けた取り組みや学習集団作りといった点も授業と切り離せない。

## III 成果物

- 1 第2学年算数科授業案「分けた大きさをあらわそう」
- 2 第6学年図工科授業案「日本のアート」きょうかしよびじゅつかん
- 2 各学年体験的学習実践報告書

(研究主任 清水 利子)